

## 第4学年国語科学習指導案

令和2年7月13日(月)

- 1 単元名 助け合って生きている生き物について読み取ろう  
教材名 「ヤドカリとイソギンチャク」東京書籍4年上  
他 共生する生き物について書かれた図書資料 等

### 2 単元の目標

- (1) 指示する語句と接続する語句の役割や考えとそれを支える理由や事例について理解することができる。 【知識及び技能】(1)カ(2)ア  
(2) 「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係について、叙述を基に捉えることができる。 【思考力、判断力、表現力等】C(1)ア  
(3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養うと共に、これまでに学習したことを振り返って学習課題を明確にし、学習の見通しをもって、進んで段落相互の関係に着目し、文章のまとまりを捉えようとする。 【学びに向かう力、人間性等】

### 3 情報活用実践力指導の観点

- (1) F 情報を分析する…第3次で文章構成図で表すことで文章を視覚的に分析できるようにする。

### 4 単元設定の理由

#### (1)単元について

本単元では、段落と段落の結び付きから意味段落を理解し、説明のまとまりを読み取る力を身に付ける学習を行う。

本単元で扱う教材文「ヤドカリとイソギンチャク」は、「問い」と「答え」の関係が見えやすく、意味段落が捉えやすいという特徴がある。また、意味段落は「このこと」「次に」などのような指示語や接続語から、「始め—中—終わり」という文章の構成や段落相互の関係が捉えやすいという特徴もある。こうした教材文の特徴は、学習指導要領における「知識及び技能」(1)カ「主語と述語の関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。」(2)ア「考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること」及び「C読むこと」(1)ア「段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること」の達成にふさわしい教材であるといえる。

#### (2)児童について

省略

#### (3)指導にあたって

##### ○具体仮説Ⅰ 学習計画力

##### ①児童と共につくる学習計画

第1次において、文章構成を理解することで筆者の主張をより理解できるようになることを確認し、今後の学習計画を児童と共に立てる。

##### ②教材文への興味を高める関連映像の視聴

第1次第1時において、実際にヤドカリがイソギンチャクを貝がらに付けようとしたり、イソギンチャクを付けていないことでタコに食べられてしまったりする映像を見る。文章だけでなく、実際の映像を見ることで教材に対する興味・関心を高め、問いをもって教材文を読むことで、内容をより深く理解することに繋がり、筆者の主張が読み取りやすくなるを考える。

③単元を貫く問いの設定

第1時・3時・6時・7時・11時に「このヤドカリには、どうしてたくさんのイソギンチャクが付いているのでしょうか。」という問いへの解答を考える活動を行う。上記の問いの解答を単元の中で継続的に考えていくことにより、教材文への理解が深まっていることを実感できるようにする。

○具体仮説Ⅱ情報発見力

④手がかりを明らかにして行う意味段落見つけ

第2次では、初めに「始め」「中」「終わり」に分けていく。その際に、「始め」①話題提示②問題提示、「中」③事例と説明④まとめ、「終わり」⑤主張（要旨）という各まとまりについて確認し、文章構成を捉えられるようにする。また、第2次第3時では、文章を5つの意味段落に分ける学習活動を行う。序論と結論はすでに1つの意味段落としてまとまっているため、実際には本論を3つの意味段落に分ける学習になる。その際には「問いと答え」の関係や、接続語、さらには主語のつながりなどの手がかりを、児童とのやり取りを通して明確にすることで、段落相互の関係を捉えやすくなり、意味段落に分けやすくなると考える。

- ・「問いと答えの関係」…3つの意味段落とも、「問い→事例を挙げての答え」という順序で述べられているため、「問い」をきっかけにして、意味段落が変わることが分かる。
- ・「接続語」…本論2と本論3の冒頭で、「では」という接続語が使われており、話の内容（意味段落）が変わることが分かる。
- ・「主語のつながり」…本論1と本論2はヤドカリの話だが、本論3はイソギンチャクの話になっており、意味段落が変わることが分かる。

○具体仮説Ⅲ情報分析力

⑤教材文の視覚化

筆者の説明の仕方を理解しやすくするために、教材文を視覚化して考える。文章構成図を作成することで、文章全体を俯瞰して確認することができ、段落相互の関係を視覚的に理解しやすくなると考える。

⑥ペア活動を取り入れた学習活動

第3次第9時では文章構成について考える際に、個人→ペア→全体という順で話し合いを行う。個人で考えをもった上でペアという少人数で話し合いをすることで、各児童が自分の考えを発表しやすくなり、より深く学習内容を理解できると考える。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①指示する語句と接続する語句の役割や考えとそれを支える理由や事例について理解している。(1)カ (2)ア	①「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係について、叙述を基に捉えている。 C(1)ア	①これまでに学習したことを振り返って学習課題を明確にし、学習の見通しをもって、進んで段落相互の関係に着目し、文章のまとまりを捉えようとしている。

## 6 単元の指導計画と評価計画(全 11 時間 本時 9/11 時間)

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
一 課題設定	1	<p>①ヤドカリがイソギンチャクを貝がらに付けようとしていたり、タコに襲われそうになったりしている動画を見る。</p> <p>②「このヤドカリには、どうしてたくさんのイソギンチャクが付いているのでしょうか。」という問いへの解答を考える。</p> <p>③今後の学習の流れについて話し合い、見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 実際の動画を見ることで、共生する生き物への興味関心をもつ。</li> <li>• 問いについて考えることで、教材文への興味関心をもつ。</li> <li>• 問いへの解答をより正確に考えるために必要な学習活動について話し合い、検討する。</li> </ul>	
二 情報の収集	2	<p>①「始め」「中」「終わり」の特性について確認する。</p> <p>②本文を「始め」「中」「終わり」に分ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「始め」「中」「終わり」の特性に基づいて、本文を「始め」「中」「終わり」に分けさせる。</li> </ul>	<p><b>【知識・技能①】</b> 付箋・対比チャート</p> <p>指示する語句と接続する語句の役割を理解しているかの確認</p> <p><b>【思考・判断・表現①】</b> 発言・ワークシート・ノート</p> <p>「問い」と「答え」、指示語や接続語、各形式段落の主語に着目しながら、各意味段落の内容を読み取っているかの確認</p>
	3	<p>①「問い」と「答え」の性格や効果について確認する。</p> <p>②本文を意味段落ごとに分ける。</p> <p>③序論の内容を読み取る。</p> <p>④「このヤドカリには、どうしてたくさんのイソギンチャクが付いているのでしょうか。」という単元を貫く問いへの解答を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「問い」と「答え」や接続語、各段落の主語を基に意味段落ごとに分けさせる。</li> <li>• 単元を貫く問いについて考えることで、児童に読み取り方の変化を実感させる。</li> </ul>	
	4	<p>①指示語や接続語の役割について確認する。</p> <p>②本論 1 の内容を読み取る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 指示語や接続語を基に、意味段落ごとの中心文を見つけさせる。</li> </ul>	
	5	①本論 2 の内容を読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 中心文を捕捉しながら各意味段落の内容をまとめる。</li> </ul>	
	6	<p>①本論 3 の内容を読み取る。</p> <p>②「このヤドカリには、どうしてたくさんのイソギンチャクが付いているのでしょうか。」という単元を貫く問いへの解答を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 単元を貫く問いについて考えることで、児童に読み取り方の変化を実感させる。</li> </ul>	
	7	<p>①結論の内容を読み取る。</p> <p>②「このヤドカリには、どうしてたくさんのイソギンチャクが付いているのでしょうか。」という単元を貫く問いへの解答を考える。</p>		

三 情報の整理・分析	8  9 (本時)	<p>①段落相互の関係に着目して、文章構成図を考える。</p> <p>②「事例」「事実(具体例)」について確認する。</p> <p>①筆者の説明の仕方のよさについて考え、話し合う。</p> <p>②「このヤドカリには、どうしてたくさんのイソギンチャクが付いているのでしょうか。」という問いへの解答を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章構成図のモデルを示すことで、文章構成図の具体的なイメージをもつ。</li> <li>「事例」や「事実(具体例)」は「問い」と繋がることを確認し、意味段落の効果について理解させる。</li> <li>教材文を意味段落ごとに短冊状にしたものを用いて、意味段落を入れ替えさせる。</li> <li>入れ替えた結果、感じた文章の分かりにくさについて話し合わせる。</li> </ul>	<p>【思考・判断・表現①】 発言・ワークシート・ノート</p> <p>段落相互の関係に着目して、文章構成図に表し、段落相互の結び付きに着目して、筆者の論の展開とその良さについて考えているかの確認</p>
四 まとめ・表現	10  11	<p>①ヤドカリとイソギンチャク以外に助け合って生きる(共生する)生き物がないか、図書資料から調べる。</p> <p>②「共生」「片利共生」「寄生」など、自然界には異なる動物同士が様々な形で関わり合って生きていることに気付く。</p> <p>①段落相互の関係や説明の仕方の工夫を振り返る。</p> <p>②「このヤドカリには、どうしてたくさんのイソギンチャクが付いているのでしょうか。」という単元を貫く問いへの解答を考える。</p> <p>③これからの学習でどのようにしていきたいかをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「共生」の意味について教材文を基に確認する。</li> <li>「共生」ではない生き方を見つけた場合は、どこが「共生」と異なるか考えさせる。</li> <li>様々な生き方をしている動物への興味関心を高める。</li> <li>学習に使用したワークシートやノート、そして実際に作成したパンフレットなどを見返すことで、児童が自分の成長を実感できるようにする。</li> </ul>	<p>【主体的に学習に取り組む態度①】 発言・感想・ワークシート</p> <p>調べたことを、どうやってまとめて文章にしていってかを振り返り、身に付けた力がどんな場面に役立つかを考え、これからの学習に生かそうという意識を高めているかの確認</p>

## 7 本時の学習

### (1)目標

段落相互の結び付きに着目して、筆者の論の展開とその良さについて考え出すことができる。

【思考力、判断力、表現力等】

### (2)展開(9/11時間)

時	学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（・）と支援（◎）
○ 分	1 本時の流れやめあてを知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前の学習で用いた拡大した教材文などを掲示しておくことで、これまでの学習の流れが確認できるようにする。</li> <li>・筆者が考えた意味段落の順序の良さについて考察するために、「中」の意味段落の順序を入れ替えたものを提示し、論の展開の必然性に着目させる。</li> </ul>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">                     筆者が考えたまとまりの順序について、そのわけを考えよう                 </div>	
○ 分	2 教材文全体における「中」の構成について全体で確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入れ替えた教材文を教師が範読し、「中」のまとまりを確認し、「中」を『まとまり3』『まとまり4』『まとまり2』という順序に入れ替えたものを提示する。</li> </ul>
○ 分	3 「中」の意味段落を入れ替えた場合に発生する分かりづらさや問題について、個人で考えてからペアで話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎これまでの学習でまとめた表（まとまりや意味段落の見出しなど）や文章構成図で文章全体の構成について確認し、「中」の意味段落の順序の入れ替えについて考える手がかりとする。</li> </ul>
○ 分	4 ペアで話し合った内容について全体で話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ主語（ヤドカリ・イソギンチャク）の意味段落が離れていると何を伝えているのか分かりづらい。</li> <li>・「まとまり3」が最初にくると、序論との関係性が分からなくなる。</li> <li>・「まとまり3」は「まとまり2」の内容から出てきた問いについて書かれているものだから、「まとまり3」が最初に来ると内容が繋がらなくなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎順序を入れ替えた教材文をワークシートに掲載することで、線や矢印、囲みなどの図、考えやその理由などを書き込みながら考えることができるようにする。</li> </ul>
○ 分	5 筆者が示す意味段落の順序の良さについてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ主語（ヤドカリ・イソギンチャク）の意味段落をまとめると読みやすい。</li> <li>・序論の内容に関係がある意味段落を続けると、内容が繋がって分かりやすい。</li> <li>・前の意味段落から出た問いを次の意味段落の答えにすると、繋がりが分かって読みやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①形式段落ごとの主語の繋がり（主語連鎖）</li> <li>②「序論・本論・結論」という文章全体の流れ</li> <li>③「問い」と「答え」を中心とした意味段落内での内容の繋がり</li> </ul> <p>という3つの点について確認する。</p>
○ 分	6 振り返りをする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・序論との繋がりがなくなってしまうことが分かって驚いた。筆者は序論との繋がりが工夫しながら、読み手にとって分かりやすくなるようにしていることが分かった。</li> <li>・同じ主語（ヤドカリ・イソギンチャク）の話をもとめた方が、読み手にとって分かりやすいと思った。</li> <li>・前の意味段落で出てきた問いが次の意味段落に続いていて、先が読みたくなるような工夫をしていた。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【思考・判断・表現】                      発言・ワークシート                      段落相互の結び付きに着目して、筆者の論の展開とその良さについて考え出している。</p> </div>

### (3)評価

十分満足できると判断される状況	概ね満足できると判断される状況	支援を要する状況への手立て
段落相互の関係に着目し、読み手への効果を挙げて、筆者の論の展開とそのよさについて考え出している。	段落相互の結び付きに着目し、筆者の論の展開とそのよさについて考え出している。	自分が読んで分かりやすい意味段落の順を比較して考えるようにさせたり、指示語や接続語、意味段落の主語等に注目させたりする。

### (4)研究の視点

- 「中」の意味段落の順序を入れ替えた場合の問題点について考えたことは、筆者の論の展開とそのよさについて考える上で有効だったか。  
(具体仮説Ⅲ 情報分析力)
- 教材文の関連図書を利用し、他の共生する生き物について調べて文章にまとめる言語活動は、教材への関心をさらに高め、習得したことを活用しようとする意欲につなげる上で有効だったか。  
(図書館活用の観点)

## 8 研究協議の概要

参加者	校内12名、校外3名 計15名
授業及び研究協議の概要	教材文を意味段落ごとに短冊状に切り分けたものを、ペアで並び替えることで、教材文の文章構成のよさについて考える授業を行った。研究協議では、ペアでの話し合いがスムーズに行われていたという意見があった。また、意味段落の読み取りに時間がかかったため、短冊には意味段落の要点のみを記した方がよりスムーズにねらいに迫ることができたのではないかという指摘があった。